

肝がん治療強化

可変形ラジオ波焼灼装置導入

念蘭
鉄記
製室

室蘭市の製鉄記念室蘭

した。

病院（松木高雪理事長、
前田征洋院長・347床）
は、肝がん治療体制をよ
り強化するため、可変型
ラジオ波焼灼装置を導
入、本格的な治療を開始

ラジオ波焼灼術は、肝
臓の悪性腫瘍を超音波や
CT画像で確認しながら
穿刺、ラジオ波で腫瘍を
壊死させる。

今回導入した装置は道

内2施設目となる最新機
種。先端焼灼範囲を5mm
間隔で自由に調整でき、
周囲臓器の損傷を最小限
にとどめられる。

3cm以上の腫瘍でも複
数方向から穿刺、事前に
肝動脈化学塞栓療法を併
用することで5cm程度ま
での腫瘍治療、原発性肝
がんのほか、転移性肝
がんも治療可能という。